

流域治水・森林の大切さを学ぶイベント 千曲川上・下流住民による共同植樹会 ～青木の森林(もり)は長沼の堤防～

概要

令和元年東日本台風(台風第19号)では、千曲川、信濃川流域が甚大な被害を受けました。

この経験を踏まえ、国土交通省千曲川河川事務所及び長野県では、流域全体のあらゆる関係者が協働して、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」について取り組むため、『信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会全体協議会』を設置しました。その会議の席上、「上流・下流での地域住民間の交流を行うことで、流域全体での防災意識向上に繋がるのではないか。」との意見を青木村長(北村政夫)が提起したことにより、この合同植樹会を計画しました。

台風第19号以降、青木村と青木村ボランティア団体は、被災地である長野市長沼地区へ被災直後や、その後の節目に、キッチンカーによる青木村特産のタチアカネ蕎麦のふるまいを行うなど、長沼地区の皆さんと交流を重ねてまいりました。こうした交流を通じて、このたび山林が持つ保水能力を高めるための植樹を行なう事で、更なる交流が深まることを期待し、植樹会を開催しました。

令和5年6月3日開催の様子 植樹 しだれ桜10本 松くい虫抵抗性アカマツ200本



(長沼と青木村をつないだキッチンカー)



(記念樹 しだれ桜植樹作業)



(集合写真(参加者70人))

令和6年5月25日開催の様子 植樹 カラマツ4,000本



(ドローンによる集合写真(参加者300人))



(青木小学校みどりの少年団 植樹作業)



(長沼地区住民自治協議会との集合写真)

【森林の持つ治水効果について】

森林の水源かん養機能

○水を貯え、洪水や渇水を緩和します

森林の土は隙間がたくさんあり、スポンジのように雨水を吸収して貯え、ゆっくりと時間をかけて川に送り出します。こうした働きによって森林は洪水を緩和するとともに、雨が降らない時も渇水を防ぐ働きをしています。

○水質を浄化します

降った雨が森林の土の中をゆっくりと通過する間に、イオンの交換が行われたり、雨水に含まれている窒素やリンなどが土や植物に吸収されます。このため、森林のある地域では良好な水質が保たれています。

森林の土砂災害防止機能

○山崩れを防ぎます

森林の土の中には木の根が網目のように張り巡らされていて、土砂をしっかりつかんで、山崩れの発生を防ぐ働きをしています。

○土砂の流出を防ぎます

森林は雨の直撃から土砂を守り、地面が削り取られたり土砂が流出するのを防ぐ役割があります。

【流域治水とは？】

○これまでの河川改修(水が流れる断面を大きくすること)に加え、流域のあらゆる関係者(河川管理者、県、市町村、県民、県内企業)が協働して河川流域で雨水を「留める」ことで、河川へ流れ出る水の量を減らします。